

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------|
| 事業所番号 | 2376100174 |
| 法人名 | 社会福祉法人昭徳会 |
| 事業所名 | 高齢者グループホーム小原安立 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 10 月 30 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 1 月 15 日 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2376100174 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人昭徳会 | | |
| 事業所名 | 高齢者グループホーム小原安立 | | |
| 所在地 | 愛知県豊田市沢田町座内22 (電話) 0565-65-1080 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部 | | |
| 所在地 | 名古屋市中区丸の内2-4-7 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月30日 | 評価確定日 | 平成21年1月15日 |

【情報提供票より】 (平成20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|---------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 6 人 |
| 職員数 | 7 人 | 常勤 2人, 非常勤 5人, 常勤換算 | 5.1人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------|-------|--|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 19,800 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 有 (円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,200 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成20年10月15日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 6 名 | 男性 0 名 | 女性 6 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 2 名 |
| 要介護3 | 0 名 | 要介護4 | 0 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 87.6 歳 | 最低 83 歳 | 最高 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | 豊田地域医療センター |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者と職員が共に支え合う様子があちこちに見られ、家族のように過ごしている。特に、食材の準備や常備食の梅干し・らっきょ・干し柿づくりは、高齢者の昔ながらの知恵を生かし、入居者のチームワーク力を育てる機会になっている。また、全員で取り組むこの作業を通じて季節を感じ、食欲を呼び起こし、しっかり食べ、食事を楽しむことも出来ている。こうした食材の購入も出来るだけ地元で賄い、地域の人々との関係づくりを構築しようと努力している。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念は法人のものを掲げていたが、ホーム独自の理念を入居者や職員で共有できるものとして作り上げ、見やすい所に掲げている。地域との付き合い、職員の育成、終末期の取り組みなどは、引き続き課題として検討されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の一人ひとりが、自己評価の意義を理解し取り組んでいる。月2回の職員会議を中心に、まとめの作業が行われ、ホームの課題などが明確にされ、改善策を検討している。</p> |
| | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域の関係者の参加のもと、2か月に1度開催されている。協議内容が入居者の日常生活を中心とした事項であることから、家族以外のメンバーには、自分たちや地域の問題として捉えにくくなっている。ホームのあり方を検討できるような協議内容で、認知症の理解を深めていく機会となるよう工夫が望まれる。</p> |
| 重点項目② | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの広報紙「うぐいすだより」を年4回発行し、ホームでの暮らしぶりを家族に知らせている。運営推進会議の折やケアプランの説明時には、ビデオやパワーポイントで日常生活の様子が分かりやすく伝えられ、家族からの意見もじっくり聞ける体制になっている。</p> |
| 重点項目③ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>福祉ビレッジの中に位置し、地域の生活圏から外れていることで、関わりが薄くなりがちであるが、地域の農園で農作物を購入したり、散歩に出て挨拶を交わすようにして、近隣となじめるように心がけている。まだまだ、訪れる人は少ないが、地区の会員に加入して、清掃活動などへの参加を目指し取り組んでいる。</p> |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 基本理念を「笑顔でつなぐ和」・「家族とつなぐ話」・「地域とつなぐ輪」として、「わ」をコンセプトとしたわかりやすいものを作り上げ、見やすい所に掲示してある。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「わ」をコンセプトとして、日々の実践の中で、管理者や職員にもしっかりと意識付けされている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 交流館文化祭へちぎり絵などを出展したり、地域での散歩や買い物などで、地域に認知され、少しずつ理解されている。 | ○ | 地域活動に参加するだけでなく、児童やボランティアを始め、地域の人々が折々にホームを訪れるよう行事等を企画し、交流を深められたい。また、ホームの玄関は、明るく親しみやすく出入りができるように工夫されたい。また、法人理念を広報紙などに積極的に掲載され、自治会の方々に回覧されるように働きかけることが期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は評価の意義を理解していて、一人ひとりが取り組み、月2回の全体会議で話し合いまとめた。評価での課題については、引き続き取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議には、地域の関係者の参加のもと、2か月に1回開催されている。 | ○ | 協議内容について、入居者の問題が広く認知症の課題として認識されるよう地域とともに考え、情報発信され、地域の福祉レベルを高められることが期待される。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センターを通して市の高齢者福祉に関わっている。地域密着型の機能を整備していくことやホームの定員増も事業所の課題として検討されている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 広報紙「うぐいすだより」を年4回発行して、入居者の日常生活の様子を家族に知らせている。訪問時には、ビデオやパワーポイントなどで分かりやすく暮らしぶりを報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会簿に家族の意見が書けるようにしている。出された意見には、例えば食事の好みや調理方法などについて、個別に対応している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動などによる影響を少なくするために、新たな職員にはマンツーマンで、関わり方や対応方法を指導している。入居者とは、作業などを一緒に行い、馴染めるように配慮している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人での研修を中心に、職員を育てる取り組みをしている。法人外の研修にも参加させ、研修に参加した場合には、レポートと報告をして反映するようにしている。専門機関紙を定期購入して、職員の学習の機会を作っている。 | ○ | 経験や専門分野の研修について、年間の研修計画を立て、認知症の専門的な職員を育てる取り組みを強化されたい。復命書は、職員間で供覧し、しっかり活用されることが望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の同業者との勉強会の機会があり、愛知県グループホーム連絡協議会へも参加している。さらには、他施設への見学研修なども計画している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居者や家族には、事前見学の機会を作っている。入所前の生活の記録を、職員全員で読み込んで、入居者を理解して受け入れている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、一人ひとりの生活歴をよく把握しており、農村歌舞伎や書道など得意な分野の経験者の知恵を借りたりして、協働の場面を作るように配慮している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の生活で、入居者の意向をくみ取れるよう言葉や表情に注意を払い、外出を希望する入居者には、介護計画の変更も含めて、支援している。意向に沿えない時は、意欲を失わないように見守りを強化している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意見（連絡ノート）を聞き、それぞれの意見を反映させて、職員会議で介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月に1度見直しをしている。変化のある時には、その都度見直しをしている。 | ○ | 具体的に見直しがあった時は、そのポイントなどを、職員や家族など誰もが分かるように記録を残すことが望まれる。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 看護師と24時間連絡体制がとれるようになってきている。家族は、面会時間以外でも面談することができる。 | ○ | ホームの持っている機能をさらに柔軟に活かし、近い将来には、地域に還元できるよう検討が期待される。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的受診には、ホームからメモで状況を伝え、家族でかかりつけ医に受診してもらっている。緊急時は協力病院に受診できるようになっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期に向けた方針については、大変重い課題であることから不安もあり、職員間で考え方が統一されておらず、引き続き検討中である。 | ○ | 医療、家族、本人の意向など体制整備するうえで、たくさんの課題があるが、看護師との連携も得られていることから、前向きに検討されることが期待される。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | トイレへの誘導などはさりげなく行われている。記録などの個人情報は、外来者の目に触れない事務室のロッカーに保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 家族からの聞き取りや本人との会話から希望を把握し、一人ひとりに個別性のある支援が行われている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の支度は、入居者全員がやれることをやって、サツマイモのつるの煮つけやかぼちゃコロケなど、楽しく準備ができています。後片付けも役割分担が出来ており、スムーズに進められている。 | ○ | 献立表は、夕食しか提示されていないので、入居者には3食のメニューを知らせるようにされたい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は一日おきにしており、順番は交代制にしている。夏の暑い日などは、入浴ができるようになっている。 | ○ | 毎日、希望の時間帯に入浴できる支援が期待される。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の準備・後片付け・洗濯物たたみ・掃除・畑作りなど一人ひとりの生活歴や力量を活かせるよう支援している。らっきょ・梅干し・干し柿づくり等で経験が活かされている。懐かしい歌を合唱したり、みんなで夢中になれるちぎり絵を楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 吉田の名水を汲みにいくドライブを楽しんだり、近くのお寺へのお参りや畑への散歩、遠出の外出など支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけない意味を職員が認識しており、外に出てしまう入居者への見守り支援を徹底している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 避難訓練は2か月に1度、併設特養とともに参加している。消火器の使用方法等を入居者とともに訓練している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量は朝昼晩ごとに記録されている。水分の摂取は、自由に補給できるようお茶が置いてある。必要のある入居者には水分補給を促している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には、壁面を使って入居者みんなで作ったちぎり絵が飾られ、入居者はほとんどの時間をここで過ごし楽しんでいる。清潔で不快な音や臭いもなく、光彩も適切である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室には窓があり、竹藪や畑など季節の移り変わりが眺められる。家具などは使い慣れたものを持ち込むことができ、居心地良く過ごせるよう工夫している。 | | |

※  は、重点項目。